

令和7年3月15日

関係者 様

世田谷区立東深沢小学校

校長 奥長 英樹

令和6年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

前年度にお示ししました改善方策について、改善結果をご報告いたします。

【学校の重点目標について】

- 1 重点目標に「思いやりのある やさしい子」を位置づけ、気持ちのこもったあいさつがあふれる学校づくりに取り組みます。

児童の振り返りの中で、あいさつができていないわけではないが「あまりできなかった」「できなかった」と低く自己評価する児童が一定数いる傾向が十分に改善できませんでした。教員が取組に対する価値付けをさらに丁寧にしていくことが必要と感じています。また、あいさつと併せて「丁寧な言葉遣い」についても指導を続けています。自分や相手を大切にする心があいさつや言葉遣いから伝わってくる児童が増えました。児童の肯定的評価を高めていけるよう、そして、保護者・地域の皆様に学校での取り組みがより分かりやすく伝えていけることを次年度の課題としていきます。

- 2 「教職員のいないところには、子どもはいない。子どもがいるところには、教員がいる。」を教職員の安全管理目標とします。

若手教員や転入教員も経験の長い教職員と同じように、年度当初から学校経営計画に基づき安全管理意識を高め、学年での見守り体制を徹底するなど、日々の教育活動で実践しています。児童が自分で考えて安全に行動できるよう、低学年を対象に警察署の方を招いての交通安全教室、月1回の安全指導日に児童への丁寧な指導に取り組みました。日常的に帰りの会等での児童への声掛けも繰り返し行っていくことで、校内だけでなく校外においても安全に対する意識を高めることができました。また、登下校時の安全については、油断することなく、教職員が高い意識をもって、引き続き、指導してまいります。

- 3 「いじめ0（ゼロ）」をめざして、いじめ未然防止・早期発見・解決に取り組みます。

「いじめは、どこの学校でも起こりうる」という認識のもと、本校ではいじめの未然

防止・早期発見・早期解決に取り組みました。毎月1回実施している学校生活アンケートを通して、児童が発するいじめのサインを見抜き、適切に対応できるよう組織的に取り組んでいます。また、児童には、学校以外にも相談窓口があることをタブレット端末等で案内し、未然防止に努めました。保護者の皆様にも92%の肯定的評価をいただき、学校の取組を十分にご理解いただいております。継続してまいります。

4 「ひがしのスタンダード2024」を策定し、学習・生活指導の充実に取り組みます。

学年の実態に応じて学校のきまり（スタンダード）の指導に取り組んできましたが、児童の意識としてきまりを守れていない児童に対する課題が浮き彫りになってきました。学校としてのきまりを丁寧に見直すとともに、教職員から指導されるだけでなく、児童自らの課題意識の育成の必要性が出てきました。次年度も、計画委員会の児童も「ひがしのスタンダード2025」の策定に携わり、児童がすすんでよりよい学校生活を送ることに対する意識を高めてまいります。

5 緊急時の対応体制の強化を図ります。

児童一人一人の安全を確保するため、月1回実施する避難訓練では、火事や自然災害がいつどこで発生するか分からないことを意識させるために、授業中だけでなく、休み時間、放送機器が使用できない等、様々なシチュエーションで訓練を実施しました。児童が自分で判断する訓練を通して、教職員の判断力の重要性も改めて確認しました。地域の避難場運営本部と学校との連携についても、さらに情報共有してまいります。

6 「児童が主体的に学ぶ」をテーマに校内研究に取り組みます。

児童がやりたい学びは何かを大切に授業改善に取り組んできました。特に、総合的な学習の時間では、「地域とつながりたい」という児童の思いを実現するために、地域の協力を得ながら学習活動を展開できたことは大きな成果でした。また、児童だけではなく、教員自身も主体的に授業改善に取り組めるよう、教員一人一人の授業改善における課題を明らかにし、教員同士の対話を重視した校内研究会の改善にも挑戦しました。さらに校内研究を充実させ、授業改善に取り組んでまいります。